

同志社大学

同志社社史資料センター報



第10号
2013年度

1. 巻頭言：同志社社史資料センター設立10周年にあたって
2. ハリス理化学館同志社ギャラリー開館経緯について
3. コラム：2014年度に向けて
4. 資料業務
5. 展示
6. 公開講演会・シンポジウム
7. 研究活動
8. 第171回新島襄生誕記念会
9. ハリス理化学館同志社ギャラリー
10. 新島旧邸
11. 委員会

同志社社史資料センター設立10周年にあたって

同志社社史資料センターが設立されてから今年で10年になる。初代所長は、法学部の伊藤彌彦教授であった。そもそも本センターは1963年に同志社本部に新設された同志社社史史料編集所をその起源とする。その後『同志社百年史』『新島襄全集』等の編纂作業にも携わり、1995年からは人文科学研究所内の同志社社史資料室として活動していた。その組織が独立して、2004年5月に同志社社史資料センターとして新たに出発したのである。

翌2005年は、同志社創立130周年に当たり、ハリス理化学館のNeesima Roomでは春学期に「同志社とアーモスト」、また秋学期には「新島襄と同志社」というテーマで企画展を行った。これと連動して、新島襄の生涯および同志社英学校から現在の同志社までの歴史をふりかえり、同志社の建学の精神を広く知ってもらうために、全国各地で写真パネルと資料の展示を行い、併せて関連する講演会を開催した。たとえば札幌では、センター所蔵のW.S.クラークの書簡や有島武郎が本学に寄贈した『イプセン全集』（厳密には有島からの寄附によって本学が『イプセン全集』を購入した）を展示し、仙台では、「仙台の同志社分校」ともいわれる東華学校に関する資料や文芸雑誌『東華』などを展示した。また、熊本では「熊本バンド」コーナーを設け、彼らにゆかりのある資料を展示した。新島の生地・安中では、「自責の杖」や新島が愛用した聖書などを展示した。その他、東京、名古屋、京都でも同様の展示や講演会が催され、各地で大きな盛り上がりを見せた。

2007年4月に就任された第2代所長は、文学部の露口卓也教授であった。2008年度春学期のNeesima Room企画展は、「よみがえるクラーク記念館」をテーマに行われた。同志社クラーク記念館保存修理事業は、2003年1月から始まっているが、5年の歳月を経て修復を終えた。この事業をふりかえって、公開講演会も開催された。この事業を指揮した京都府教育庁指導部文化財保護課の鶴岡典慶氏は、修復事業の意義について、「建物を直すことはもちろんであるが、その歴史を解明し、後世に伝えていくということも大きな使命のひとつである」と述べられた。たとえば1本の釘あるいはひとつの釘穴が建物の経歴を知る手がかりとして非常に重要な意味をもつことがあると強調された。

2008年度秋学期には、「早稲田と同志社—創立者の想いと交流から—」というテーマで企画展とシンポジウムが行われた。『同志社社史資料センター報』第5号(2009年4月)には、「早稲田大学野球部寮 安部寮」という記事が掲載されている。早稲田大学野球部は1901年に創部され、初代野球部長は安部磯雄であった。安部といえば社会主義者として勇名をはせており、早稲田大学政治経済学部の教員として学生等に多大な影響を与えていた。じつは彼は同志社英学校の卒業生であり、同志社でも教員を務めた人物である。早大野球部寮を彼に因んで安部寮と呼んでいる事実は、早稲田と同志社の歴史的なつながりを示すと同時に同志社としても誇りに思うところ大である。

2008年度からは新しい試みとして、博物館学芸員課程の「学外実習」を受け入れたことが特筆される。実習テーマは、「同志社社史資料の調査と整理」で、14人の実習生がこれに取り組んだ。以前からセンターが学生との接点をもつ必要を感じていたが、それが実現したわけである。また、2008年度末には第二部門研究(同志社社史研究)が立ち上げに至ったが、一定の成果を残したものの2012年度末に終了することになった。

他方、第一部門研究(新島研究)は毎年8回～9回の研究会が開かれ、興味深いさまざまなテーマで報告が行われ、活発な議論が展開されてきた。第一部門機関誌である『新島研究』は、2009年2月には第100号が刊行され、「新島襄を若い世代にどう教えているか」および「新島襄の伝記をめぐって」という統一テーマで報告が行われている。

さて2013年度は、NHK大河ドラマ「八重の桜」の年であった。2011年、NHKは東日本大震災で被災した人々を勇気づけるために福島・会津出身の新島(山本)八重を主人公とするドラマを作ると宣言した。これ以降、センターはこれに関連する資料の整理、展示、貸出、講演などの業務を引き受けることになった。福島県および会津若松市との包括協定に基づく人的な交流もあった。新島旧邸の来訪者は空前的規模になった。また、「会津と八重」というテーマでNeesima Room企画展が行われ、こちらも多くの人々を魅了した。

これまでセンターあるいは同志社としては新島襄に比べて八重に関する展示、発信は極めて少なかったと思われる。しかしながらたとえば、2009年秋学期のNeesima Room企画展で「新島八重の生涯—進取と矜持」と題して展示を行い、講演会も催している。この時すでに会津若松市や福島県立博物館などの協力を得ている。だがこの時点で、八重を主人公とする大河ドラマが放映されるとはだれも予想しなかったであろう。これとの関連で興味深いのは、2006年度の新島襄生誕記念懸賞論文の高等学校の部・最優秀賞には、同志社国際高等学校3年の飯田智子さんの「新島襄と八重との愛—自分らしさとは—」が選ばれたことである。八重に対する興味は底流のところ脈々と流れていたというべきである。

昨年の事業でもうひとつ重要であったのは、ハリス理化学館同志社ギャラリーが11月29日に開館したことである。これについては『同志社大学広報』No.452(2014年3月)に詳しく述べているので、そちらを参照願いたい。

最後に触れておくべきは、センターがこの10年間で大学アーカイブズとして着実に充実してきたことであろう。この間に収集した資料は約3000タイトルで、収集、整理、保存業務は確実に進んでいる。大学アーカイブズとしての機能を一層充実させていくことは継続的な課題である。

こうして同志社社史資料センターの10年をふりかえってみると、さまざまな経験を積み重ねながら、センターが成長してきたことがわかる。2014年度の課題は、同志社ギャラリーの展示・運営を軌道にのせること、また、同志社創立150周年を見据えて準備を進めることであると考えている。

ハリス理化学館同志社ギャラリー開館経緯について

2013年11月29日の創立記念日、今出川キャンパス中央に位置するハリス理化学館（国の重要文化財）でハリス理化学館同志社ギャラリーが開館した。館内には6部屋の常設展示室（「新島襄の人と思想」、「同志社のあゆみ」、「同志社の今」、「世界の中の同志社」、「J.N.ハリスと同志社」、「京都の中の同志社」）と2部屋の企画展示室が設けられ、同志社の歴史や文化を総合的に展観できる施設が誕生した。

ギャラリーについては、まず2009年のハリス理化学館構想検討委員会の設置が出発点である。当時は、新しい今出川キャンパス構想のもとで、各事務所が別の建物に移転した後のハリス理化学館（以下、理化学館）の運営方法が課題となっていた。そこで、理化学館全体を展示室とした運用を検討する構想検討委員会が構成された。

委員会は2011年3月31日付で「ハリス理化学館の構想について」（答申）を提示した。この答申には「建学の精神と教育の理念への理解を深めることを目的」として、(1)常設・企画の展示 (2)新入生初年次教育や留学生オリエンテーションとの連携 (3)新入社員（教職員）研修との連携 (4)法人内諸学校における正課・課外活動との連携 (5)講習会・研究会の開催などが挙げられている。つまり、自校史教育のための活用が大前提であった。

この答申を受けて、同年11月ハリス理化学館新島記念ギャラリー設置検討委員会が組織され、8ヶ月の議論を経て、より具体的な検討を行うハリス理化学館同志社記念ギャラリー設置準備委員会、そして、その具体案を作成する作業部会が設置された。以来、2年の歳月をかけ、この度の開館となった。

このように、理化学館は自校史教育を大前提とし、大学をはじめとする同志社内諸学校の児童・生徒・学生、教職員、さらには卒業生らの愛校心を喚起し、加えて、同志社の内外に情報を発信する情報発信基地としての役割を課せられた。つまり、今後のギャラリーは、同志社の伝統と革新を伝播するという役割を期待されている。

同志社社史資料センター

2014年度に向けて

2013年のNHK大河ドラマが、本学の創設者である新島襄の妻、八重を主人公とする「八重の桜」と決まって以来、同志社社史資料センター(以下、社史資料センターと略す)の位置づけと働きは、ますます重要になってきているといえよう。本報第9号(2012年度)の「2012年度を終えて」において述べられているように、NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」への協力、すなわち八重関係資料の公開業務を通じて、社史資料センターには、これまでの大きな目的であった新島遺品庫資料や新島旧邸文庫、蘇仙庵文庫などの管理、創立以来の同志社諸学校関係資料の収集・整理・活用、『新島研究』(年刊)、『同志社談叢』(年刊)などの出版や年2回のNeesima Room企画展、公開講演会を通じた同志社の歴史・建学理念の普及・啓発活動に加えて、本学と東日本大震災被災地との協力という新たな目的が与えられたからである。

2013年度には、第1回企画展「新島襄と八重」が、新装なったハリス理化学館同志社ギャラリーにおいて、創立記念日から2月末まで開催された。これは、福島県、会津若松市、福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館などとの協力によるものである。さらに同館内常設展示室「同志社の今」では、特別写真展として、3月11日から6月29日まで「東日本大震災・原発事故から3年―福島現場を考える」展が開催されている。われわれ第一部門研究(新島研究)においても、2013年度の一日研究会において、「八重研究 第2ステージ 八重像を求めて―会津・覚馬・襄」と題したシンポジウムを実施し、これまでの議論において抜け落ちていた「会津」というファクターを加えた。

このように「八重の桜」をきっかけに社史資料センターの重要性が増すにつれて、その活動や業務への注目も増している。新島旧邸にはこれまでにない多くの見学者が訪れ、「新島襄と八重」の来場者数も、1月10日に1万人を超えた。従来からの資料業務も飛躍的に増加したであろうことは、八重関連書籍の出版の多さから容易に想像できる。

しかしながらすでに「2012年度を終えて」において述べられているように、大河ドラマの放映は一年間であり、放映後のポスト「八重の桜」が社史資料センターの次の課題となろう。そこで拙文のタイトルを「2013年度を終えて」ではなく「2014年度に向けて」とした。2013年度をつうじて与えられ、果たしてきた役割を一過性のものに終わらせてはならない。2014年度は、新島襄の海外への渡航から150年という節目の年でもある。われわれ第一部門研究も、社史資料センターのこれまでの蓄積と発展を活用して、研究の側面からポスト「八重の桜」に向けてともに責任を果たしていきたい。

同志社社史資料センター
第一部門研究(新島研究)
代表 横井 和彦

資料業務

1. 資料整理

同志社社史資料センター綱別蔵書冊数(逐次刊行物は除く)

(2014年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	52	210	36	82	4	41	26	106	1,641	2,199	19.6%
1 哲学	15	8	175	32	25	150	48	21	84	1,406	1,964	17.5%
2 歴史	35	1,075	105	39	0	32	0	0	1,043	216	2,545	22.7%
3 社会	126	159	149	146	9	12	156	1,952	14	24	2,747	24.5%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	59	238	2.1%
5 技術	11	13	54	8	8	4	5	8	10	14	135	1.2%
6 産業	12	24	1	0	0	2	4	25	10	4	82	0.7%
7 芸術	26	2	82	9	13	22	41	16	24	11	246	2.1%
8 言語	8	71	17	67	9	4	0	2	1	10	189	1.7%
9 文学	31	618	117	93	23	2	0	0	2	1	887	7.9%

※日本十進分類法による分類

総冊数 11,232冊

2. 資料提供(写真資料を中心に)

會津藩校日新館観光事業部	アトリエ・NOA	NPO法人大路小路まち・ひとづくりネットワーク
会津会	ベストセラーズ	NPO法人杉の樹カレッジ
会津若松観光物産協会	View	NHKアート
会津若松市観光公社	文英堂	NHKエンタープライズ
会津若松市観光商工部	文藝春秋	NHK福島放送局
会津若松市教育委員会東公民館	ぶらんとマガジン社	NHK編成局「スタジパークからこんにちは」
安中市学習の森	ブレインポート	NHK報道局「おはよう日本」
安中市観光ボランティアガイドの会	Chapman University	NHK放送映画製作所
青山学院	千葉県男女共同参画センター	NHK京都放送局
アールフラワー	千葉県福祉ふれあいプラザ	NHK大阪放送局
アルテスパブリッシング	中経出版	NHKプラネット近畿総支社
朝日カルチャーセンター梅田教室	中央公論新社	NHKサービスセンター
朝日新聞社函館支局	ディ・コンプレックス	NHK制作局文化福祉番組部
朝日新聞社平塚支局	デイリープラネット	NHK出版放送・学芸図書
朝日新聞社北海道支社報道センター	ANAセールス	NSコーポレーション
朝日新聞社京都総局	エフジー武蔵	SIC中部ディレクションセンター
朝日新聞社静岡総局	エイチ・アイ・エス	えすと
朝日出版社CNN English Express編集部	エクザム	フィールズ

富士急トラベルツアーセンター山梨
婦人画報
福音社
福島中央テレビ
福島放送
福島県会津若松市立東山小学校
福島県会津若松市立小金井小学校
福島県観光物産交流協会
福島県観光交流局
福島県教育会館
福島民報社会津若松支社報道部
福島民報社東京支社
福島民友新聞社企画推進部
伏見プランニングセンター情報誌「四条」
学研パブリッシングテレビライフ編集部
現代社会保険
元気な事務所
岐阜市生涯学習センター
銀の鈴社
ギルドハウス京菓子資料館
極上の会津プロジェクト協議会
群馬県立高崎女子高等学校
群馬県立土屋文明記念文学館
群馬東部よみうり新聞社
グレイル
グループ現代
Hand to land編集室
ハーツアンドマインズ
ひでみ企画
ひこね市文化プラザ
北海道文化財保護協会
北星学園キリスト教センター
本の泉社
保志
放送映画製作所
ヒューマンサポート
イー・ディー・アイ

イエスと歩む会
池坊華道会
いのちのことば社
いわき市生涯学習プラザ
JR東日本企画仙台支店
JR西日本近畿統括本部
JR西日本コミュニケーションズ
JR西日本京都支社京都交流推進委員会
JR東海ツアーズ
JTB西日本
JTBプランニングネットワーク
城陽邦楽友の会
KADOKAWA角川学芸出版ブランドカンパニー
カイエン
神奈川新聞社横須賀支社報道部
関西浜通り交流会
関東学院大学
川俣町
京阪神エルマガジン社
頸城自動車株式会社
吉備ケーブルテレビ
企画キャップ
季刊情報誌さぼうる秋春誌
近鉄ホテルシステムズ京都営業統括部
岸和田市役所
北原白秋生家記念財団
北野健寿会特別養護老人ホーム西陣憩いの郷
神戸っ子出版
神戸新聞旅行社
神戸新聞社編集局社会部
光文社「女性自身」編集部
高知県立坂本龍馬記念館海の見える・ざやらしい
金剛
郡山市立美術館
廣濟堂あかつき
クエストルーム
くじら

熊本県立図書館・熊本近代文学館
熊本日日新聞社
クラブツーリズム関西バス旅行センター
クラブツーリズムカルチャー旅行センター歴史への旅
クラブツーリズム仙台旅行センター
栗本学園名古屋商科大学
クロスブリード
教文館出版部
協同企画
京都文化財団
京都府京都文化博物館
京都府立須知高等学校
京都府立図書館
京都インターナショナルユニバーシティ
京都きものパスポート事務局
京都市民報社
京都レディースランチョン
京都市文化市民局共同参画社会推進部
京都市歴史資料館
京都市産業観光局観光MICE推進室
京都東急ホテル
救世軍本営
九州歴史資料館
毎日放送
毎日新聞社大阪本社編集局
舞鶴市教育委員会
舞鶴市立赤れんが博物館
益城町教育委員会
松山市坂の上の雲のミュージアム
名鉄観光サービス
水俣市産業建設部
三沢市先人記念館
宮崎日日新聞社高鍋支局
ながの東急百貨店トラベルサロン
長崎文献社
長崎大学
日本アート・センター

日本文芸社	埼玉新聞社クロスメディア局	東畑建築事務所
日本エディテック「私の時間」編集部	三猿舎	東北観光推進機構海外事業部
日本基督教団熊本草葉町教会	山陽新聞社倉敷本社編集部	東京基督教大学図書館
日本基督教団出版局	西北社第一企画編集部	東京都看護協会
日本赤十字社福島県支部	聖イエス会嵯峨野教会	トップツアー京都支店
日本赤十字社徳島県支部	C & E	トライアウト
日本旅行作家協会	新雨出版社	東映太秦映画村東映京都スタジオ
日本私立学校振興共済事業団京都館	白河市役所	東洋プリディア東京支社
新島学園短期大学	白川書院	敦賀市北公民館
日進堂印刷所	市立函館博物館	上杉文化振興財団
日商社	市立米沢図書館	上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会
のはら舎	双林印刷社	ウイメンズクリエイターズ・アズ
ヴァコーポレーションマナベル倶楽部社会保険センター	素対館会津武家屋敷	ウインディ
オフィスバンズ	スクール・コーポレーション	ウィズ
オフィスコウ	スリーシーズン	URANTIA
桜風舎	社会就労センター東山自立センター	ワック「歴史通」編集部
oidoon	書道研究書芸院	ワン・ステップ
大阪よみうり文化センター	小学館サライ編集部	早稲田大学商学大学院
ピーアップ	書肆亥工房石井編集事務所	山形県寒河江市教育委員会
PHPエディターズ・グループ書籍編集部	体育会少林寺拳法部	山中湖文学の森徳富蘇峰館
PHP研究所	高島屋宣伝部京都店販売促進室	読売旅行姫路営業所
ピーススタッフ	淡交社	読売旅行新居浜営業所
らくたび	TBSテレビ	読売新聞社京都総局
歴史春秋出版	テクニカルサポートシステムデジタル印刷部	読売新聞社大阪本社編集局地方部神戸総局
レマン	テレビ朝日	読売新聞社大阪本社神戸総局
リゾートトラスト	テレビマンユニオン	米沢温故会
さぼうる	テレビユー福島	ユージンプランニング
佐賀市教育委員会川副出張所	東武トラベル	

博物館実習の受け入れ

例年通り、博物館実習生として女子大学から1名を受け入れた。5日間の実習では、アーカイブズの基礎知識に関する講義のほか、資料のメンテナンス、調書作成など学芸員業務全般の実習指導を行った。また、最終日には福島県主催イベントでの写真パネル設営作業の補助も担当した。なお、本年度の大学の「学外実習」は実施しなかった。

展 示

1. 展示活動

Neesima Room企画展

第42回企画展

日 時：2013年3月26日(火)～6月30日(日)
テーマ：「会津と八重―八重を育てた故郷―」
主 催：学校法人同志社
共 催：福島県、会津若松市、福島県観光物産交流協会
協 力：福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、会津武家屋敷、白河市歴史民俗資料館、二本松市歴史資料館
後 援：白河市、二本松市、京都府、京都市、NHK京都放送局
来場者数：17,976人
実施日数：77日

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第1回企画展

テーマ：「新島襄と八重」
日 時：2013年11月29日(金)～2014年2月28日(金)
主 催：同志社大学同志社史資料センター
協 力：福島県、会津若松市、福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、日本基督教団 同志社教会
来場者数：17,572人
実施日数：65日

ハリス理化学館同志社ギャラリー常設展示室 「同志社の今」特別展

第1回

テーマ：「美術部クラマ画会創部100周年記念展
～同志社学内展～」
日 時：2013年11月29日(金)～2014年2月20日(木)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：18,602人
実施日数：59日



第2回

テーマ：特別写真展「東日本大震災・原発事故から3年
―福島現場を考える―」
日 時：2014年3月11日(火)～6月29日(日)
主 催：福島民友新聞社、福島中央テレビ
後 援：福島県、京都府、京都市
協 力：学校法人同志社
来場者数：4,182人(2014年3月31日現在)
実施日数：89日



2. 展示協力

NHK、NHKプロモーションへの展示協力

東京都江戸東京博物館（2013年3月12日～5月6日）、福島県立博物館（5月17日～7月3日）、京都府京都文化博物館（7月13日～9月1日）で開催されたNHK大河ドラマ特別展「八重の桜」へ新島八重関連資料100点の貸出

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」（2013年4月1日～2014年3月31日）をテーマに、新島八重関係資料（レプリカ）と写真パネルを貸出

今出川図書館への展示協力

「新島襄と読書」（2013年4月22日～7月31日）へ新島遺品庫収蔵資料31点を貸出

同志社校友会滋賀県支部への展示協力

2013年度定期総会講演会「『八重の桜』が伝えたい事」（2013年6月1日）への新島八重関連写真パネル10点を貸出

桜咲く会津フェスタ2013実行委員会への展示協力

イオンモール京都五条店で開催された「会津から京都へ 凛と生きた八重展」（「桜咲く!会津フェスタ2013」2013年7月19日～21日）へ新島八重関連資料（レプリカ含む）6点、写真パネル19点を貸出

福島県への展示協力

京都駅前広場で開催された「関西ふくしま交流フェア」（2013年3月16日～17日）へ新島八重関連写真パネル7点を貸出

京都タカシマヤで開催された「新島八重のふるさと 福島の観光と物産展」（2013年8月8日～12日）へ新島八重関連資料（レプリカ含む）5点を貸出

新風館で開催された「関西・ふくしま交流フェア」（2013年8月9日～10日）へ新島八重関連写真パネル3点を貸出

若松城天守閣郷土博物館への展示協力

企画展「京都守護職拝命150年と『新島八重』」（2013年9月14日～11月4日）へ新島八重関連資料22点を貸出

白河市歴史民俗資料館への展示協力

白河集古苑で開催された特別企画展「新島八重の生涯と白河～白河がつなぐ故郷への想い～」(2013年9月20日～11月4日)へ新島八重関連資料110点を貸出

国東市への展示協力

「男女共同参画 パネル展」（2013年10月1日～11日）への新島八重関連写真パネル19点を貸出

ラーネッド記念図書館への展示協力

「新島襄と読書」（2013年10月21日～11月22日）へ新島遺品庫収蔵資料5点を貸出

仙台三越への展示協力

企画展「新島八重と仙台」（2013年10月31日～11月6日）へ新島八重関連資料（レプリカ含む）19点の貸出

川俣町・福島県織物同業会への展示協力

「川俣シルクを使った八重の桜衣装展」（2013年11月23日～12月15日）への新島八重関連写真パネル7点を貸出

公開講演会・シンポジウム

第42回Neesima Room企画展「会津と八重—八重を育てた故郷」

演 題：「会津と八重—八重を育てた故郷を語る—」
講演1：「会津若松城下 その歴史と文化」
講 師：野口 信一氏(会津歴史考房主宰)
講演2：「八重と兄・覚馬に見る会津」
講 師：露口 卓也氏(同志社大学文学部教授)
対 談：「京都と会津から見た会津藩と八重・覚馬兄妹」
パネリスト：野口 信一氏、露口 卓也氏
日 時：2013年6月15日(土) 13:30～16:30
場 所：良心館地下2番教室
参加者：288名

ハリス理化学館同志社ギャラリー第1回企画展「新島襄と八重」

ハリス理化学館同志社ギャラリー開館記念公開講演会
演 題：「新島八重と『八重の桜』と」
講 師：吉海 直人氏(同志社女子大学表象文化学部教授)
日 時：2013年12月14日(土) 13:00～14:30
場 所：良心館地下2番教室
参加者：168名



特別写真展「東日本大震災・原発事故から3年—福島現場を考える」

ハリス理化学館同志社ギャラリー常設展示
演 題：「福島の3年—記者の視点から—」(3回連続公開講演会)
第1回「記者が経験した震災・原発事故」
講 師：小泉 篤史氏(福島民友新聞社報道部記者)
日 時：2014年3月11日(火) 13:30～15:00
場 所：明德館1番教室
参加者：53名

研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)の研究会は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 露口卓也)

第128回例会	2013年4月8日(月) 『新島研究』104号論評会 「新島襄と吉原重俊(大原令之助)の交流」 報告者：吉原 重和 論評者：本井 康博 「南山義塾の誕生から消滅まで—南山義塾、同志社英学校、自由民権運動—」 報告者：森永 長壹郎 論評者：井上 勝也 「山本覚馬と新島襄III」 報告者：井上 勝也 論評者：露口 卓也
第129回例会	2013年5月13日(月) 「同志社と明治京都の近代化—時代祭の一考察—」 報告者：金 泰成
第130回例会	2013年6月10日(月) 「医療宣教師“John C. Berry”がめざした医学校設立運動について (1884—1885年にかけてのアメリカでの設立運動を中心に)」 報告者：布施田 哲也
第131回例会	2013年7月8日(月) 「新島襄の足跡を辿る～中国・四国編 岡山、高梁、玉島、笠岡、今治、松山」 報告者：田島 繁
第132回例会	2013年8月3日(土) 「大学医学部設置は新島襄の悲願だったのか」 報告者：大越 哲仁 全体テーマ「八重研究 第2ステージ 八重像を求めて—会津・覚馬・襄」 「会津と八重：会津の八重」 論者：北垣 宗治 「山本覚馬と妹八重」 論者：井上 勝也 「襄と八重」 論者：伊藤 彌彦 総合討論 露口 卓也(コーディネーター)、北垣 宗治、井上 勝也、伊藤 彌彦
第133回例会	2013年10月21日(月) 「同志社と清水安三夫妻」 報告者：矢崎 邦彦
第134回例会	2013年11月11日(月) 「初等教育における『新島襄』カリキュラムの実際」 報告者：森田 喜基
第135回例会	2013年12月9日(月) 「リベラル・アーツ教育—その理論と実践—」 報告者：西田 毅
第136回例会	2014年1月20日(月) 「新島襄・山本覚馬・八重三人の出会い—一冊の本「天道溯原」をめぐる—」 報告者：吉田 曠二

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第105号 A5判 219頁 2014年2月28日発行

論 叢	特集 八重像を求めて 会津と八重：会津の八重 山本覚馬と妹八重 襄と八重 「八重研究 第2ステージ 八重像を求めて—会津・覚馬・襄」シンポジウム報告 大学医学部設置は新島襄の悲願だったのか 新島襄の持病リウマチズム (Rheumatism) について 新島襄の母とみと先祖の中田家—口述における「人望家」について— 大久保真次郎の伝道とその性格「独立」と「合同」	北垣 宗治 井上 勝也 伊藤 彌彦 大越 哲仁 布施田哲也 関口 徹 森田 喜基
エッセイ	「新島襄の足跡を辿る 風間浦、函館、札幌」 「良心教育」におけるパスファインダーの活用	田島 繁 多田 直彦
コラム	新島先生が1875年宇治川で描いたスケッチ「山と川と釣り人」の場所を特定 新島の決意を示す手紙見つかる 同志社でAmherstを「アーモスト」と表記する事になった経緯	田島 繁 北垣 宗治

『新島研究』編集委員会

松井全氏追悼
新島八重関連書籍

3. 機関誌

『同志社談叢』第34号 A5判 314頁 2014年3月1日発行

論 叢	浮田和民とL・L・ジェインズ大尉の人間的交流—浮田文庫書簡などを通して— 山本覚馬覚え書(五)—「管見」を中心に— 北村透谷と増野悦興のキリスト教認識—内部生命論と信仰の実験—(二) ウィリアム・E・ドッジ、バイルートのシリアン・プロテスタント・カレッジと同志社 アレクサンドラ・コビルスキ	石井 容子 竹内 力雄 滝澤 民夫
資料紹介	新出新島襄書簡の紹介 〈新出資料〉徳富蘇峰記念館所蔵新島襄書簡について(2) —教会合同問題をめぐって— 「我友山本覚馬」—廣澤安任の遺した資料— 新発見の新島英文資料	布施 智子 石倉 和佳 吉田 幸弘 北垣 宗治
公開講演会	第四十二回Neesima Room企画展公開講演会 会津若松城下 その歴史と文化 八重と兄・覚馬に見る会津	野口 信一 露口 卓也
資料	新島襄関連の文献目録(32) 購入資料・受贈資料目録	

4. 刊行物

- 『同志社大学 同志社社史資料センター報』第9号(2012年度)
(2013年4月発行)
- パンフレット『同志社の文化財建築物』増刷
(2013年5月発行)
- パンフレット『新島旧邸』増刷
日本語・英語表記(2013年6月発行、2014年1月発行)
- パンフレット『同志社社史資料センター』改訂
(2013年11月発行)
- パンフレット『ハリス理化学館同志社ギャラリー』
(2013年11月発行)
- 『同志社社史資料センター叢書 新島八重関連書簡集』
同志社大学同志社社史資料センター編
(2014年3月発行)

第171回 新島襄生誕記念会

日時：2014年2月13日(木) 17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞 伊藤 豊(山形大学人文学部人間文化学科教授)
新島研究功績賞 加藤 拓(NHK専任ディレクター 大河ドラマ「八重の桜」チーフ演出)

記念講演

演題：豊かさとはなんだろうか？大河ドラマ「八重の桜」創作のキーワード

講師：加藤 拓(NHK専任ディレクター 大河ドラマ「八重の桜」チーフ演出)

新島襄生誕記念懸賞論文(2013年度)

【中学校の部】

最優秀賞 佐藤 凌太(風間浦中学校1年)
「新島襄『函館紀行』～下風呂寄港の『偶然』と『必然』」

優秀賞 三俣 すみれ(同志社女子中学校1年)
「同志社女学校の生活～私たちへの道しるべ～」

里内 加乃(同志社女子中学校1年)
「新島襄がいう『良心』とは」

佳作 降矢 千紘(同志社女子中学校1年)
「新島襄の『自責の杖』に思うこと」

片伯部 亘希(同志社香里中学校1年)
「山本覚馬が京都にみた夢」

川村 菜々花(同志社中学校1年)
「新島襄～自由への思い～」

【高等学校の部】

最優秀賞 山田 里実(同志社国際高等学校3年)
「新島襄が残した言葉～最後の三日間の言葉の記録～」

優秀賞 亀井 麻絢(同志社国際高等学校3年)
「新島襄の異なる一面～『数学ノート(その6)』の落書きからの考察～」

矢野 七海(新島学園高等学校2年)
「新島襄と同志社に捧げた人生―湯浅治郎の足跡をたどって―」

佳作 大工原 真結(新島学園高等学校3年)
「同志社を支え、批判した勝海舟の宗教観」

河野 大和(同志社国際高等学校3年)
「新島襄の悲願、医学教育」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

開館時間 10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
 休館日 火曜日、祝日、
 2013年12月23日～2014年1月5日、2月3・4日
 開館日数 94日(企画展示室は66日)



2013年度入館者数(2013年11月29日～2014年3月31日)

	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総入館者	2,084人	8,818人	4,332人	5,129人	5,804人	26,167人
同志社のあゆみ	423人	4,308人	3,282人	5,849人	7,555人	21,417人
企画展示室	1,607人	7,704人	3,870人	4,365人	—	17,546人
京都の中の同志社	1,071人	5,974人	1,646人	2,679人	5,312人	16,682人

新島旧邸

2013年NHK大河ドラマ「八重の桜」の影響を見込み、2012年9月から2014年3月まで「特別公開」を実施した。なお、2014年4月から9月までは、建物のメンテナンス期間とし、見学を一旦中止する。10月以降の開館予定や見学方法については、現在検討中である。



特別公開日 2012年9月1日～2014年3月31日
 開館時間 10:00～16:00(入館受付は15:30まで)
 休館日 火曜日、年末年始12月28日～1月5日、夏期8月12日～16日
 見学対象 母屋1階と附属屋
 見学申込 個人・団体とも原則としてインターネットによる予約申込制(事情によってFAXも可)

2013年度見学者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
10,358人	10,737人	8,437人	6,768人	7,186人	10,006人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11,808人	11,859人	8,329人	3,239人	3,188人	4,375人	96,290人

委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2013年度)

布留川正博	同志社社史資料センター所長	天野 太郎	女子大学現代社会学部准教授
真山 達志	教務部長	伊藤 博子	中学校・高等学校教諭
藤原 耕二	企画部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
吉田由紀雄	事務局長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教頭
鷺江 義勝	人文科学研究所長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
圓月 勝博	歴史資料館長	露口 卓也	文学部教授
北 幸史	法人事務部長	出原 政雄	法学部教授

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2013年度)

布留川正博	同志社社史資料センター所長	天野 太郎	女子大学現代社会学部准教授
吉田由紀雄	事務局長	平松 譲二	女子中学校・高等学校教頭
鷺江 義勝	人文科学研究所長	露口 卓也	文学部教授
北 幸史	法人事務部長	出原 政雄	法学部教授

事務室	所長	布留川正博
	参与 (部長待遇)	高田 芳樹
	事務長	沼井 哲男
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	社史資料調査員	杉原 悠三
	契約職員	多賀 晴美
	アルバイト	3名

Neesima Room
ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室
院生アルバイト 1名 (7名で交代勤務)

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て、大学評議会で行う。

附則)

この規程は、2013年11月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム (DOORS) に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出ができる者は、以下とする。

- ア) 同志社大学学生・教職員
- イ) 同志社女子大学学生・教職員
- ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- エ) センターが設置する部門研究の参加者
- オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第10号

発行日 2014年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：昭和三年京都会津会秋季例会記念集合写真 金戒光明寺にて 1928年(昭和3)